

障がい当事者部会 報告書

会議名	第1回 障がい当事者部会		
開催日時	令和5年8月10日(木) 14時~16時		
開催場所	板橋区役所 北館9階 大会議室 B		
出席者数	8名(欠席1名、代理1名)	傍聴者数	2名

報告事項(2件)

議題名	第9期障がい当事者部会の活動計画について
概要	第9期の協議事項、今後の部会開催スケジュール等を報告。
主な意見・質問/回答	・今年だけではなく、来年も年2回の開催になるのか。 →前期に引き続き、年2回の開催を予定している。
今後の方向性	協議事項に沿って、部会における検討を進めていく。

議題名	地域生活支援拠点等の整備について
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活支援拠点等運営会議にて、地域生活支援拠点(以下「拠点」という)等がもつ5つの機能の充実に向けた検討および、各取組の評価、検証を行っていく。 ・安心支援プラン、赤塚ホーム短期入所事業など、拠点等の5つの機能における、各事業の進捗状況を報告した。
主な意見・質問/回答	<ul style="list-style-type: none"> ・板橋キャンパスのグループホームは視覚障がい者も対象となるのか。 →基本的には、知的障がい者と、知的障がいと身体障がいの重度重複の方を対象と考えている。民間では整備が難しい部分を整備していく計画。 ・板橋キャンパスに整備するサービスの対象者に、精神障がい者も入れてほしい。 ・板橋キャンパスの短期入所における医療的ケアの受け入れについて、対象年齢(18歳未満、以上等)はあるか。医療的ケア児の受け入れ先が少なく、緊急時に利用できない。 →現時点では年齢の制限は想定していない。緊急時に備えて、あらかじめ短期入所や赤塚ホームのレスパイト等を利用しておくことも重要。 ※板橋キャンパスについては、運営事業所のスキルや判断によるところが大きいため、板橋キャンパスに係る回答は、あくまでも現時点で検討している内容である。 ・地域生活支援拠点等運営会議のメンバーに障がい当事者部会員や当事者を入れてもらいたい。
今後の方向性	今後も地域生活支援拠点等運営会議での検討内容や、各機能における取組の進捗状況を、適宜、部会に報告していく。

協議事項(1件)

議題名	緊急時に想定される課題の抽出
概要	地域生活支援拠点等における緊急時の対応について、部会員から意見を抽出した。
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時、ここに連絡すればどこかに繋げてくれるという場所が必要。相談窓口を一つにしておいて、関係者はもちろん、警察などにも周知してほしい。また、相談を受ける人のスキルアップも課題。 ・夜間や早朝などの閉庁時における、緊急時の対応を検討してほしい。介護者が倒れて、取り残された障がい者を早朝に預かったこともある。部会の場で、こうした緊急時の対応の好事例を交換していきたい。 ・視覚障がい者は、介護者に事故等があった場合でも、障がい者だけでは生活できなくなるといった、ひっ迫性がない方が多い。そういった、ひっ迫の度合いが低い障がい者に対しても対応をとっていく体制を整備してもらいたい。 ・難病患者はこれから若年化していく。ヤングケアラーの問題にも対応が必要。 ・親が亡くなったとき、経済的な問題に直面する。障がい者が引きこもり状態だと、誰も問題を把握できない。問題を表面化できるようなシステムが必要。 ・緊急時にも医療的ケアを継続できるよう備蓄をしている。区内にも充電メインステーションが5か所あるが、そうした公的な体制の充実が必要。 ・障害者(児)は、緊急時にとてもパニックになってしまうと思う。本人の障がい特性や関わり方をよく理解している人に連絡を取れる体制があると安心。こういった声掛けでどう反応したか等、障がい者(児)が保護された施設でのやり取りも連携が取れるとよい。
今後の方向性	次回以降の部会にて、緊急時に想定される課題を整理し、課題に対応する社会資源の共有や拠点等の機能充実に向けて検討を進める。

その他(2件)

議題名	権利擁護部会からご協力をお願い
概要	・事務局から部会員に対し、障害者差別解消法セミナーにおける当事者へのインタビューと、権利擁護部会で開催している事例勉強会に係る協力を依頼した。

議題名	部会員からの意見
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・板橋区では、固有名詞を除き、「障がい」のがいの字をひらがな表記している。漢字とひらがなの使い分けや、区としてひらがな表記を用いるようになった経緯をホームページや障がい者福祉のしおり等に記載してほしい。 ・サポートファイルが、令和5年3月から区のホームページにアップロードされている。学齢期はもちろん、入院時や施設利用時など支援者への情報提供に活用できる。今後区としてもっと周知してもらいたい。